

磐梯町官民共創・複業・テレワーク審議会記録

(第5回審議会)

会議日時	令和3年3月17日(水)午後13時00分開会			
	午後13時52分閉会			
場所	オンラインにより開催			
出席者数	委員定数6名中出席者6名			
出席委員	小田 理恵子		玉置 真悟	
	小澤 綾子		五十嵐 大輝	
	尾崎 えり子		中嶋 貴子	
欠席委員				
出席した者	磐梯町 CDO	菅原 直敏		
	デジタル変革戦略室長	穴澤 竜一		
書記	デジタル変革係長	長 泰志		
付議案件	磐梯町官民共創・複業・テレワーク審議会 (1) 報告事項 ①職員テレワーク研修の事後アンケート結果 (個人・機密情報を含んだ業務の内訳) について (2) 協議事項 ①テレワークについて (3) その他 次回、第6回の日程について			
会議の概要	(別記のとおり)			

【会議の概要】

- ・ それでは、定刻となりましたので、ただいまから第5回磐梯町官民共創複業テレワーク審議会を次第により進めさせていただきます。2の会長挨拶でございます。小田会長よろしく申し上げます。(穴澤)
- ・ はい。よろしく申し上げます。みなさん、こんにちは。3月も残すところあと2週間となりまして、いよいよ来年度が始まりますということで、今後新しいいろんなことを検討していくにあたっての道筋なんかをつけていければいいのかなと思います。
私、今、マスクつけていますけど、オフィスにいる関係と、今花粉が非常にきつくてですね、マスクで失礼させていただきます。皆様もですね、体調にはご留意いただいてですね、今後進めていければと思いますので、よろしく申し上げます。(小田)
- ・ はい、ありがとうございます。それでは3の議事に入らせていただきます。審議会要綱第5条第2項の規定によりまして小田会長に議長をお願い致します。小田会長、よろしく申し上げます。(穴澤)
- ・ はい、承りました。ではまず1の報告事項の方に進めさせていただきたいと思います。
職員テレワーク研修の事後アンケート結果についてということで、個人・機密情報を含んだ業務の内訳についてご報告があるということです。こちらは穴澤室長でよろしいですかね。よろしく申し上げます。(小田)
- ・ はい、それでは私の方からご報告させていただきます。資料を共有させていただきます。ご覧になりましたでしょうか。(穴澤)
- ・ はい、見えてます。(小田)
- ・ 前回の審議会ですと、玉木委員さんの方からご質問頂きました、テレワークにおいて親和性が低い理由としてですね、個人情報・機密情報を含んでいるためセキュリティ上問題があると回答された38名の内訳について、ご報告をさせていただきます。
まず、所属課としてはですね、総務課・建設課・町民課の順になってございます。各課のその理由でございますが、磐梯町にはですね、税務課がございません。税務業務を総務課の方で所管してございますので、税務業務といいますと、どうしてもですね、基幹系のパソコンを使用しないとできない業務が多いことからですね、個人情報を用いることから親和性が低いという評価になっているところでございます。
次に多かった、建設課でございます。建設課におきましては、やはりですね、対住民との業務、あとは工事現場の管理とかを行う業務が主な業務となっておりますので、どうしても適さないという評価になってしまっております。
次に、3番目に多かったのはこの町民課でございます。町民課はですね、やはり、町民が多く訪れる窓口業務が主たるございますので、どうしてもテレワークには適さないという評価になってしまっております。磐梯町は人口3400人足らずの小さな行政体でございますので、ほとんどの職員が対住

民との業務が存在することから、なかなか100%テレワークに移行するのは難しいのかなと思っています。

今後ですね、そのような環境整備等を含めまして、課題として解決してきたいなと思っているところでございます。私からは以上でございます。(穴澤)

・ 皆様の質問ですとかご意見ある方、よろしくをお願いします。(小田)

・ はい、すみません。(玉置)

・ はい、玉置委員をお願いします。(小田)

・ すみません。私の質問に対して資料まで使っていただきありがとうございます。ちょっと資料を見させていただき、概ね予想通りかなという、負担金を使うものなのどは、基本的にテレワーク、基本的にLACじゃなくて。そういうところであると、現場対応とかいうのは、ほぼほぼ想定どおりかなと思う。

見てて、これ本当に関係するのかなっていうのがないわけじゃないですけど、おおむねそんな感じかな。だから、現場業務の部分なんていうのは、どちらかといったらモバイルワークというか、別の側面からもテレワークの親和性がでてくるものかなところもあったりするので、この中でも、テレワークをチャレンジ、お家でやるテレワークというよりは、現場出て行って、現場で解決しちゃえば、要は役所にもどってきてお仕事する必要がないくらいのもっていうのもやれるんじゃないかなと、思ったりもしたので、今後、親和性が低いからテレワークやらないっていうよりは、いろんなテレワークの在り方みたいのをチャレンジする要素としては、まだまだ余地があるのかなっていうのは、ちょっと見てて思った次第です。私からは、以上です。(玉置)

・ ありがとうございます。今のご意見を受けて穴澤室長いかがでしょうか。(小田)

・ はい、ありがとうございました。

今回ですね、たまたま商工観光課の職員が、テレワーク研修後に帰ってきてからの感想といたしまして、このテレワーク研修を自宅でなくて、テレワーク施設で職員研修受けていただいたんですが、そこで業者の方で打ち合わせができた、あるいは、そこからまっすぐ現場に行けたというようなこともございますので、玉置委員が仰るようにですね、役場のオフィス以外でのモバイルルーターを活用してのテレワークとか、これから色々場面場面に応じてのテレワークの在り方というか、働き方をこれからも検討して参りたいと思います。ありがとうございました。(穴澤)

・ ありがとうございます。他にご意見ご質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。

では、私の方からも確認させていただきたいのですが、現行の業務の中でテレワークに適さないというところの細かいお話はいただいたと思うのですが、改めて確認させていただきたいんですが、今後の働き方を含めて中で、こういった業務自体を見直すことによってテレワークをさらに推進していくというお考えなのか、あるいは、現行の業務はこの形でいったんは据え置きして、できるところからやれる形にしていくのかって、そのあたりの方針はどういう風にお考えなのでしょう。(小田)

・ はい、このコロナ禍におきましてはですね、政府の方も、特に首都圏におきましては70%をテレワークにしてくださいというようなことの申出っっていますか、そういう要望がされているかと思いま

す。幸いですね、会津地方におきましては、それほどコロナの患者も発生しておりませんし、当町では、現在のところ1名のみです、感染者が出たのが。ですけども、これからこういった状況になるかわかりませんし、この後ですね、またコロナ以外の災害時とか、あと、働き方改革におきましてですね、特にご結婚・出産された女性の方の辺りですとね、どうしても育児の関係で育児休暇を取らなきゃいけない、育児休暇を取っていただくのそれはよろしいんですが、上手に働くひとつの手法といたしまして、このテレワークっていうのは非常に有効な手法だと思っておりますので、本人が希望すれば、そういった勤務体系がとれるような職場環境の改善というか、そちらをはかっていきたいなと思っておりますのでございます。(穴澤)

・ はい、ありがとうございます。

前回、このあたりをご報告頂いて、各委員方からかなり活発なご議論が出ている話で、今回はその補足ということで進めさせていただいているので、いったんこの程度でとどめさせていただければなあと思いました。ありがとうございます。

じゃ次の協議事項の方に移らしていただいてよろしいでしょうか。はい、2の協議事項としまして、テレワークについてということで、こちらは最高デジタル責任者でよろしいでしょうか。(小田)

・ はい、それでは、私の方から説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。まずはですね、皆さんに既に配付をさせていただいております、官民共創・複業・テレワークに関する審議会テレワークに関する現状・課題・展望及び論点についてという資料にもとづいて、ご説明させていただきます。

資料の共有をさせていただきます。早速なんですけれどもテレワークについてということで、磐梯町ではですね、先ほど室長からお話がありましたけれども、まず、職員が自分らしくやりがいを持って働ける環境作りと、そして、緊急時の業務継続性を維持するためにテレワークを全庁でできるための体制の整備を進めております。

特に、前者においてですね、職員の部分においては、テレワークを強制するのではなくて、職員の選択において実施できる体制・環境整備に主眼を置いて諸々のものを進めております。また、後者においては今度は業務ですので、業務として速やかに対応できる体制・環境整備を行うことに力点をおいてます。この2つの軸でおこなっています。

まず、最初の部分なんですけれども、テレワークという言葉の意味と前提条件なんですけれども、テレワークには磐梯町ですね、在宅勤務、サテライトオフィス勤務、モバイルワークの3種類の視点からテレワークというものを分類して進めております。特に磐梯町はですね、サテライトオフィス勤務中心に大半の職員がテレワークを体験をしたという、そういった経験もありまして、その実用や可能性について検証させていただいております。また、デジタル営業戦略室においては、基本的には完全クラウド、完全リモート、完全ペーパーレスで組織設計・業務設計をすでにしておりますので、今あります在宅勤務、テライトオフィス勤務、モバイルワークのすべてを基本的には、問題なく全員がやっております。なので、今日私は在宅勤務という形になりますし、委員の五十嵐さんは、モバイルワークという形、あるいは、QWSなので、サテライトオフィスという形、様々な形となります。

課題なんですけれども、やっぱり、先ほどの意識アンケートの結果にもあるんですけど、職員毎に意識の差があることと、あと、実際やってみると、通信環境等ですね、端末等の整備がまだ追いついていないという部分がございます。

展望としては、職員の働き方という観点からは、誰もが自由にテレワークを選択して、自分の生活のリズムに合った働き方を実現していける、その具体例として、先ほど室長より女性の働き方と言ってきましたけど、これは女性に限らずであって、すべての職員の人たちが、たぶん、それぞれの思う生活のペースがございまして、そういったところとですね融合していければいいのかなあという部分があります。その手段として、テレワークは有効だと考えています。で、業務という点においては、やはり喫緊におきましては、コロナウィルスの関係がございまして、緊急時に速やかにテレワーク等を活用して業務の継続性を維持できる体制、これは、もう業務ですので、業務命令としてやってもらう部分もしっかりできるようにしておかなければならないと考えております。

皆さんにご議論いただきたい論点としては、職員間の意識の差を平準化していくアプローチってどういふものがあるのだろうかって部分であったりとか、また、テレワークが速やかに実施できる環境と体制整備というものをこういったところをご検討いただきたいと思います。

2点目なんですけども、テレワーク実施の際のツールという形になります。テレワークを推進するうえで、チャットツール、オンライン会議ツール、オンラインストレージ等々を活用しています。ツールの活用についての課題なんですけど、課や個人によって差、活用に差があるという部分がございます。

展望なんですけれども、全ての職員がツールを使いこなすことによってテレワークも含めた様々な就業環境が実現しているというのが展望になります。

論点としてはですね、ツールですね、先ほど言ったような様々なツールなんですけども、そういった活用に慣れてもらうにはどうしたらいいんだろうかというところであったりとか、ツール、色々考えて選定してるんですけど、逆に委員の皆さん色々ご知見があると思いますので、こういったツール使っていくといいじゃないのとか、こういった選定の仕方があるじゃないのみたいなところを、まだ、磐梯町は試験的に色んなツールを使っている段階なので、本格導入ではございませぬので、そういったご意見とかもいただけたらと思います。

最後に働き方っていう部分なんですけど、テレワークって基本的には手段であって、何のためかって言うと、まずひとつはそれでも働き方に対するアプローチだという風に考えております。で、こういったところで、職員もそうなんですけれども、今日の審議会の委員の皆さんもそうですけど、様々な複業人材ですね、こういった人材がテレワークによって磐梯町の色んなところに参加してことが可能になっているという部分もございまして。なので、今デジタル変革室を中心にですね、様々な働き方を実験的に試してはいるんですけども、こういった部分の課題として、職員にとんだ全庁に落とし込んでいくという部分が大切だとおもんですけど、やっぱり、どういう指針でやっていったらいいのかという部分を今検討をしているところでございまして。

展望としては、先ほどと同じで、職員がやっぱり、町民の皆さんとだったり、複業人材の皆さんとテレワーク等も通じてより価値を作っていけるような働き方を実施していきたいなというふうに考えています。

こういったところで論点としてはですね、雇用形態と就業規則あり方言った実はアナログの規則にも意外とテレワークを導入するときのですね、悩ましい論点であったりもしたりもしますので、こういったところも皆さんそれぞれ組織に属されていると思いますので、そういったところでどうされているのかですね、そういったことも含めてですね、特に具体的にいうと、勤怠管理ってどうしていけばいいのだろうか、時間で管理しなきゃいいんだよとなればすごくシンプルなんですけれども、役場

には役場のやっぱり今まで培ってきた規則もございまして、こういったところとどういう風に調整をしていくのかなあいうところにご知見をいただけたという風に思っています。

- ・ 以上です。(菅原)
- ・ はい、ありがとうございます。各委員の皆様から質問やご意見賜りたいと思います。いかがでしょうか。
尾崎委員、お願いします。(小田)
- ・ 感想レベルで大丈夫ですか。(尾崎)
- ・ はい、大丈夫です。(小田)
- ・ はい、ありがとうございます。(尾崎)
- ・ 思ったことが2つあります。ひとつは、職員の方々が自分のリズムに合わせて働きやすいようになっていう文脈だと思うんですけど、公務員の人たちって市民のことを考えてるじゃないですか、私、何かって言うと自分が一番中心ですけど、公務員人たちって市民のこと考えると、自分働き方ばかりを追っていいのかみたいな罪悪感を感じてる人がいるんじゃないのかなと思っていて、メリットの作り方を自分の人生の幸せのためではなく、あなたがテレワークをすることによって、実は町民の方とか市民の方々も幸せになるですっていう、もうひとつの文脈脈を作ってあげることで、罪悪感なく、これ意識の差っていうところにもよるかもしれないですけど、やっていただけるんじゃないかなと。例えば、私が埼玉県の吉川市で様々な課にテレワークの実験をしていただいた時に、子供子育て系の方がやってくださった時に、仰っていたのは、僕の仕事はマネジメントなので、実際はその場において色んな人の顔を見れた方がいいけれども、窓口の相談に来たお母さん達に、こんな働き方もあるよねっていうのを、提案できるようになった、自分が体感して。その課題もわかったし、スキルを得ていた方がいいだろうなってこともわかったと。それだけでも、市民サービスの向上につながったみたいなご意見を言っていた方がいらっちゃって、そういうふうな、市民にどう自分の働き方の変化が還元されるのかっていうところも、一步重要なポイントなのかなと思っています。
2つ目の、意識の差なんですけど、私がテレワークを色々やっていて思っていることは、テレワークの意識の差って、仕事は苦行であると思っているか、仕事は人生の喜びであると思っているか、どちらかによって全然変わってくるんですね。
仕事を苦行であると思っている人達は、テレワークはさぼるんじゃないか、なんだって嫌なことをずっとやり続けてるから、当然見てもらってなかったらサボるよねって前提に立つか、仕事をしたくってしてるんだから、どこ行ったら私はやりますよって前提になっているかっていう、その仕事のとらえ方、特に日本人にとっての仕事って、基本やらなければならないことで、やりたいものではない場合が多いので、ここも、ルールとか制度とか、勤務体系とかも重要なんですけども、そもそも仕事のとらえ方ってところからちょっと直していかないと、難しいのかなという風にも思いました。以上です。(尾崎)
- ・ はい、ありがとうございました。今のご意見を受けて室長、CDO コメントの方なにか。(小田)
- ・ はい、特に民間企業と違って役場の場合は、ともすると町民の方からサボってるじゃないか自分のた

めにやるんじゃないかとかご批判をいたがくこともやっぱりあると思うんで、やっぱり先ほど仰っていた、これをやることによって町民の為にもなるんだっていう軸をつくっていくというのは、すごく大切なという風に思いましたので、そこら辺なんか意識的に入れていけるんじゃないかなあと思いました。

あと、仕事が苦行かどうかっていうのは、室長にお伺いした方がいいと思うので、室長に公務員歴長いので、お願いします。(菅原)

- ・ 苦行という前に、先ほど仰りました働き方の模範的な部分をちょっと話させていただきたいと思います。どうしてもですね。田舎の小さい自治体ですと役場がある意味模範といいますか、前例、さきがけになります。以前ですと、私就職したころは、週休2日という制度がございませんでした。公務員も。そのあと、4週8休とか、隔週に土曜日休んだりとかになってきたんですが、それが役場あたり、官公庁から始まって徐々に民間の方にも広がっていったという流れがございますので、このへんはですね、率先して町がテレワークを入れる、そういった働き方改革があるだよってのを町が模範となって示すことが、労働者である町民に対するメリットに繋がっていくんじゃないかと思っております。

苦行の部分ですか、私は仕事は辛くても楽しくやろうとするタイプなので、終わってみれば楽しかったな終わってみれば楽しかったなというのが、結果なんですけど、特にですね、小さい町ですんで、隣近所からも役場職員だという目で見られますので、どうしても事あるごとに地区の行事とかも率先して参加はしなきゃいけないし、職員であると同時に地域のリーダー、あるいは模範的にならなきゃいけないっていうのが、小さい自治体の役場職員使命っていうか、そういう風になっているのかなと思っております。なんか答えになってなかったもしませんね。(穴澤)

- ・ いえいえ、大丈夫です。でも、あの、なんか驚きました。役場がリーダーになる地域ってあるんだいう。役場ってどっちかっていうと、先に前例がいっぱいできてから追いかけていくものかなと思ったのでああ、そういう地域もあるんだなってことがすごい勉強になりました。ありがとうございます。(尾崎)

- ・ はい、ありがとうございます。役場が地域のリーダーっていうのは、そうなんだなっていうのは私も感じました。やりがいったぶん仕事の中身が変わるかどうかだけじゃなくて、周りの人たちがどういう風にとらえるのかがすごく大切だと思ってまして、今、仰ってたような話というのが、やはり市民の方にも伝わるというですし、そのへんをどういう風に、伝え方とかコミュニケーションしていくかっていうデザインは大事なのかなという風に思いましたし、やっぱり、行政のことを知ると、本当に色んな事やってくださってるだなあってことで、私なんかもありがたいと思うようになったんですね。行政のひと本当にいろんなことやってもらってありがたいというふうに思います。なので、そのありがたいを市民の方から貰えるような接点をつくっていくといいなあとという風には感じました。

他委員の方、ご意見とかご感想とかお願い致します。今日は本当に感想で大丈夫だと思います。はい。

小澤さん、お願いします。(小田)

- ・ はい、私も感想レベルにはなってしまいうんですけど、やっぱり何か新しいことをやろうとなったとき

に、本当にそれがカルチャーとして根付くまでは、特別なことじゃないっていう状態に在宅勤務・テレワークをもっていかなくてはいけない。そのためには、ひとりひとりが自分らしくやりがいをもって働けるためにこのテレワークを利用するわけで、一人ひとりがメリットとして感じる、それを使うことによってなにかしらメリットを感じる必要があるなあと考えています。ひとりひとりが使うことによって、心地いい状態。言われたからやるとか、なんか目標があるからやる、なんかやらされ感ではなくて、本当に使ってメリットを感じるから心地よいから使うってかたち。そして、形骸的ではなくて、全ての人が当たり前のように使うという環境を早く作っていきなるといいのではないかと考えています。

そこが役所がロールを作っていくというか、新しい事例を作っていくということなので、はじめにやる方は、あまり心地よい状態からではないかもしれないですけど、私でもですね、在宅勤務やってみて1年になるんですけど、それまでは、実はあんまり在宅勤務というのを使ってなかったんですね。私は障害があって車いすの状態ではあるんですけど、みんなが在宅勤務してないから私もしたくないって気持ちで、なるべく会社に行くようにしてしまっていたところがありました。それは、みんなは使っていないから、私だけ特別なんじゃないかなって思うのが心地よくなかったので、ずっと会社に行くっていう状態を続けていたんですけど、コロナ禍になって、全員が当たり前のように家から働くようになって、なんかみんな同じように働いているし、同じような制約条件の中で働いている、かつ、テレワークをしてみると便利どころもたくさんある、自分にとってとても心地よい状態だと思えるようになってからは、この状態からは抜け出せないかなと考えているくらい、テレワーク愛好者になりましたので、早くその心地よい状態っていうのに持っていきなるといいなという風に思いましたし、みんな使っていこうってところは、自然になっていくといいなと思いました。

あとは、チャットとかオンライン会議ツールとか、オンラインストレージとか、どういう風になれていったらいいのかという点がありましたけど、在宅ワーク・テレワークに関わらず普段からそういうものを当たり前に使っている状態というのを作って、その延長でテレワークの中で使ういう風にしていただくのがいいのかなという風に思ったんですけど、普段は、対面で済んでしまう話なので、あまりそういうのを使っていない状態なんですかね。例えば、階が違う方とチャットツールでチャットしたりとか、たまたま出張で遠くにいる方とこの時間に会議しなくてはいけないので、オンライン会議ツールを使ったりとか、データのやり取りをするときにオンラインストレージってすごく便利だと思うんですけど、普段からどのくらい使われているのかなっていうのは、ちょっと気になった点でした。はい、以上となります。(小澤)

- ・ はい今のご質問に関していかがでしょうか。(小田)
- ・ はい、それでは私の方から磐梯町においてどの程度ですね、ツールをつかっているのかをご説明させていただきます。今回、磐梯町ではサテライトオフィス勤務によるテレワークを経験していただきました。ここは、LAC といまして、テレワーク施設になっています、町内の。そこは、電話も FAX もございません。そこに研修に行かれた職員は、パソコンだけ持って行きます。ネット環境だけが整っているという状態です。そこに Teams だけを入れてあげました。それを使って役場にいる課の方とオンライン会議したり、あるいはチャットツールで打ち合わせをしたり、後はオンラインストレージを使っているんなデータのやり取りとかをされておりました。前回は申し上げさせていただきましたが、このテレワーク研修には2つの目的、一つは本来のテレ

ワークを体験していただくのと。あともう一つがこういった機器に慣れていただくためという2つの目的をもって行いました。

その後ですね、おかげさまで、役場職員全員に Teams を入れることができましたので、今は様々な業務連絡をあえて Teams の方でさせていただいております。年末年始に仕事納め式と仕事始め式で町長からの訓示があるのですが、コロナ禍ということで1か所に集まることができませんでしたので、皆さん、自席から Teams の会議ツールを使って町長の訓示を聞いたというようなことで、本当に今ですね、小澤さんから仰られましたとおり、普段からいかに使ってもらうかが、慣れる早道じゃないかなと私思っております。おかげさまで私も使うぜるを得なくなったので、こうしてビデオ会議とかそういうのまでできるようになりました。はい。(穴澤)

- ・ はい、ありがとうございます。小澤さんいかがでしょうか。(小田)
- ・ はい、ありがとうございます。はじめは皆さん、違和感あると思うんですけど、日々当たり前にログインするというか、そこをチェックしに行くと、そこで仕事が回るようになると、苦痛にも感じずに空気吸っているみたいな感じで使えるようになると思いますので、日々なれていただくのがいいのかなというふうに思いました。はい。(小澤)
- ・ はい、ありがとうございます。他の委員の方、ご感想などぜひお願いします。
はい、五十嵐委員。(小田)
- ・ 僕も小澤さんと同じくですね、テレワークが快適すぎて、もうオフィスに出勤するというのは無理だなあと思ってしまうんですけど、ちょうど昨日ですね、あの小田さんと一緒に三重県のワーケーションの仕事をさせていただきました。その中で仰っていたことは、ワーケーションやテレワークに関して2つあるんですけど、ソフト面とハード面のことで、ハード面に関しては、はもちろん wi-fi 使える環境、後は意外とこのコンセントですね、以外とないよねって話もできてまして、こういうものが町のどこの施設にあるのか、LAC になんとくあるなってのはわかるんですけど、公民館とかペンションとか、なんかテレワークできそうな所あるかどうかはわかっているのって、すごくポイントかなと思いました。
あと、ソフトの面に関しては、行った先に知り合いだったりとか、色々聞ける人がいることって最初は大事なのかなという風に思いました。例えば、昨日だったら、僕は三重県とは全然縁も所縁もなかったんですけど、昨日のイベントのかかわることで、三重県に知り合いができたことによって、三重県に行ける環境ができあがったので、それを、磐梯町に落ち込んだ時も、LAC にも気軽にシステムとかネットワーク周りを聞ける人がいるのかなとか、ちょっとコミュニケーションを楽しく取れる人がいるのかなってことは、導入部分に関しては、すごく大事なかなと思ったのが、昨日のイベントからの学びでした。なので、磐梯町もそこを置き換えて作っていいのかなと思っております。
以上です。(五十嵐)
- ・ はい、ありがとうございます。今のご意見を受けていかがでしょうか。(小田)
- ・ はい、まずハードの部分でございますが、現在磐梯町でスト七ツ森センター-LAC しか、こういった環境が整っているところは正直ございません。ただ、交流館って五十嵐君わかりますかね。(穴澤)

- ・ はい、わかります。(五十嵐)
- ・ そちらの方もかろうじてあるのかな Wi-Fi。ただ今町で検討しているのは、電車でくる場合の玄関口でございます磐梯町駅の方にですね、ちょっとしたワーキングスペースを整備したいなということで今 JRさんと協議をさせていただいているところでございます。
あと、ソフトの部分、まさしく人にかかわる部分かと思いますが、この辺はですね、LAC 辺りで働いてもらっています地域おこし協力隊の方あたりにご尽力いただくしかないのかなと思っております。幸いにして非常に親切協調性の高い地域おこし協力隊配置してございますので、磐梯町としては人の部分も、LAC に関しては、対応がされているのかなと思ったところでございます。(穴澤)
- ・ はい、ありがとうございます。テレワークの話をしていると、どうしてもいろんな人材と混じっていく話に繋がり、交流人口の話したがり、どんどん広がっていく話になっていくなあっていうのは、今、話を聞いていて思ったところです。今後、いろんなここで審議をしていく形になるんですけど、やはり、そういったものってひとつに収束していく部分はあるなって、思いながら聞いていました。テレワークでいったん職員の働き方というお話ではあるんですけど、それを考えていくと、結果的には、市民との関わりですとか、あるいは、首都圏の人たちとの関わりですとか、磐梯町にどうやって人を呼び込むかっていう話になっていくんだってことは、話を聞いていて思った次第です。なので、この審議会の中では、そういった部分もやはりどんどん発散しながら、よりよいものが作ればいいのかという風に思いました。
はい、では、他の方ぜひご意見、ご感想をお願いします。
中嶋さん、いかがでしょうか。(小田)
- ・ そうですね、ほんと私も早い、2010 年ぐらいから在宅ワークというかテレワークみたいなことをずっとやってるんですけど、その頃は全然、こういうツールもないし、カナダと日本でのちょっと遠距離の仕事をしてたんですけど、その頃はもうコミュニケーションって言ったら Skype を使って、時差もあるので、変な時間に、早朝 4 時とかに会議をやってたんですけども、やっぱり、この意識の差が一番感じたのって、孤独なんですよね。快適ではあるんですけども、そうやってすぐ聞ける人がいないとか、仕事で、例えば電話取った後に、ちょっと自分、ちょっと嫌な電話だったとした時に、ちょっと愚痴りたい人がいないみたいな、そういう心を、ちょっとしたそういう話をする人がいないっていう、孤独っていうのは結構感じた事があって、それはだんだんこういうツールが発達してきて、なかなかそういうのは減ってきてるとかなあと思うんですけども、職員間の意識の差というのを平準化するっていうのと、環境整備っていうのは、卵が先か、鶏が先かじゃないですけど、本当に環境が整うと、職員の人にも便利だな、なるほど、すごい便利だなって思ってくれるので、もっといろいろ積極的に、例えば、今、テレワークできないというふうにアンケートでは書いたけど、もしかすると意識が変わると、何とかすれば変えられじゃないだろうかって風に意識も業務自体のやり方っていうのも、意識を変えていこうという風に思えるかもしれないし、ていうふうに環境整備と職員間の意識っていうのは、整えていくにつれて、どんどん上がって行くのかなって風には感じています。
先ほど、小澤さんも普段からチャットツールを使うことでどんどん慣れていく話ができましたけれども、いきなり例えばサテライトでやるっていうのが難しかった場合は、極端な話、例えば、庁舎内の席、今は、課毎に島がありますけれど、もう、いっそのこと全部自由席にしちゃって、好きなところ

に座れる、課の島をなしにして、好きなところに座って行って、必要があればチャットツールで連絡を取って、まずは庁舎内で、ミニサテライトじゃないですけど、自由なところに座れる、そこでチャットツールを使ってコミュニケーションをとっていく、でそれと外に行っても大して変わらないじゃないかなって感じで、極端な話ですけれども、そういうアイデアもあったら面白いじゃないかなという風に考えました。以上です。(中嶋)

- ・ はい、ありがとうございます。

孤独って話し出しましたけど、昨日の五十嵐さんと出た先ほどお話があったイベントの中でも、テレワークの本当に進んでいた企業さんが今、困っているのが、やっぱり、従業員の間のコミュニケーションだっていう話があって、雑談をオンラインでどうやっていくかというところのデザインをしていくみたいな話がありました。テレワークをすることで、身体的な快適性や業務的な効率性ですとかってところが得られる一方で、もしかしたら心理的には何か課題が出てくる可能性ってもあるのかなと思いましたので、そのあたりも視野にいれて、今後いろんなやり方で、そこがクリアできていくといいのかなと思った次第です。

もう一方は、普段、今、どうやって職員の人たちが雑談というかコミュニケーションしているのかってところが少し知りたいなというふうに思いました。そのあたりってどうなのでしょう。先ほど、チャットツールというか Teams などを使い始めたって話がありましたけど、そこでチャットなんかで頻繁に意見交換がなされているとか、そういった兆しはあるのでしょうか。(小田)

- ・ 残念ながらチャットツールでの意見交換というかコミュニケーションまでは発展してございません。職員同士ですと、今、机ならべておりますので、勤務時間内にも会話できますし、プライベートなことはやはりお昼休みとか勤務時間外にいろいろコミュニケーションをはかれておりますね。皆さん、はい。(穴澤)

- ・ わかりました。ありがとうございます。玉置委員、いかがでしょうか。(小田)

- ・ はい、すいません。さっきテレワークの時にいろいろお話したので、若干継続するところもあるかとは思いますが、さっきワーケーションの話が五十嵐委員から出たので、その部分若干触れたいと思います。以前、ワーケーションの担当を県庁のほうでしていたので、やっぱりワーケーションする上で施設の話ってどうしても先に出がちなんですよね。で、さっき施設の話も色々穴澤室長の方からもありましたけれども、システム GO で行きますとどうしても施設の方が関われないってのはよくあることで、それよりもやっぱりどうやったらワーケーションに来てくれる人を定着させるかということを考えていく方が、後からハード整備はおっかけてもやれるので、第一にどうやって来てもらうかというもの考えた方がいい。その時にさっきの人の話、LAC の方にいる人の話とか色々ありましたけども、やっぱり魅力的な人がどれだけいるのかっていうのが、重要な部分になってくるので、この辺りをうまく育成するっていうのがひとつ育成するっていうのがあり得るのかなとちょっと話を聞いていて思いました。ちょっと感想みたいなかんじですけど。(玉置)

- ・ はい、ありがとうございます。

ソフトの面も含めてという、今ご意見がございましたけど、その点いかがでしょうか。(小田)

- ・ 磐梯町のテレワーク施設、自然がよくて、スキー場が近くて、いいですよーなんて言ってますが、そ

ういうと結構多いんですね。実際は。だから、その後に出てきた、やはり人というのは本当に大事だと思います。で、この七ツ森にある LAC ってところで、今、様々なですね、官民共創のプロジェクトが生まれております。例を挙げていいますと、一つがばんだいジオピザプロジェクトというものでございまして、地元の若手の農家さんが作ったトマトとか、そういうのを利用されて都会からテレワークでこられた料理好きな人、あるいは、実際にレストランとか経営されてる方もいらっしゃいますし、いろんな広告業とかもやってる方が一体となってますね、磐梯町の名産を使った名物のピザを作ろうというようなプロジェクトが生まれてます。それが生まれたことよりましてですね、今度、やはり自分が育てたプロジェクトですんで、どういうふうに進んでいるのかなというのが非常に気になるようですので、今度たびたび来ていただけるような、来ていただけるきっかけづくりになっているようございまして。ですから、交流人口の拡大という部分も、そういう部分と本当に密接につながっているのかなと思っていますところございまして。今、磐梯町ですとそういったプロジェクトも生まれておりますので、人という部分でですね、そういうところも町の方でいろいろと応援をさせていただきたいなと思っていますところでございます。(穴澤)

- ・ ありがとうございます。皆さん、一連の今のご意見ですとか、やり取りを含めていかがでしょうか。さらにちょっとこんなこと聞いてみたいですか、今の話を受けて思ったことなどあれば、ぜひお願いしたいですけど。いかがでしょうか。

はい、大丈夫そうですね。いったん、今日の所はこのあたりにさせていただきたいと思います。次にその他ということでもよろしくお願いたします。(小田)

- ・ はい、その他は私の方からご提案させていただきます。その他ということで、第6回の日程になります。4月はですね、是非磐梯町の方において頂いて、開催をしたいと考えてございまして。ちょうどですね、桜が咲く頃の時期かなということで先ほど調整さんの方にも投げさせていただきましたが、4月21日と27日どちらかで調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。審議会をですね、15時から。今回磐梯町においていただいた際は、役場ではなくてですね、先ほどから話題になっております、LAC方、是非体験して頂きたいと考えています。で、終わりましたら、18時から情報交換会も開催したいと思っておりますので、日程調整の方よろしくお願いたします。(穴澤)

- ・ はい、ありがとうございます。そうしましたら、日程調整の方は調整さんの方でということですね。

- ・ そうしますと、3時からということになりますと、移動も含めて、当日移動して、その日は宿泊という形の日程になりましかね。(小田)

- ・ 次第の方にあらあらの日程感記載させていただいておりますが、もし、早くお越しになる方はですね、ぜひ早い時間においていただければ、磐梯町の方いろいろ史跡慧日寺跡とかございまして、ご案内させていただきたいと思っております。(穴澤)

- ・ はい、ありがとうございます。今もうすでに磐梯町さんの方には、いろんな面白い取り組みですとか素敵な方々がたくさんいらっしゃると思っておりますので、まず人と繋がるということで、いろんなご縁がいただければいいなという風に思いました。ありがとうございます。

その他それ以外で、今、課題提起ですとか、ご意見ですとか何かある方いらっしゃいますでしょうか

か？（小田）

- ・ いいですか。（尾崎）
- ・ はい、尾崎委員、お願いします。（小田）
- ・ 何か特色のある学校みたいなものがあれば、学校の視察をしたいんですけども、デジタル活用しているような。そういうところって見に行けたりするものですか。（尾崎）
- ・ はい、学校関係、まなびときばんだいということで、学校終わってからの事業といたしますか、活動を立ち上げようとして一生懸命制度設計しているところですが、4月20日はちょっと動いてないかなって思いますが、時間があればその辺をご紹介もさせていただきますし、ギガスクールの方はたぶん動いてるかと思しますので、ちょっと教育委員会なり、こども課と掛け合っただけで可能であればご視察頂けるような手配をさせていただきたいと思っております。（穴澤）
- ・ ありがとうございます。（尾崎）
- ・ はい。（穴澤）
- ・ 以前審議会の方で、もし、磐梯町方に審議会メンバーが行ったら、子供と一緒に審議会を見ていただくですか、そういったことも検討したらいかがかというご意見も出たと思うんですけど、その可能性もあり得ますでしょうか。（小田）
- ・ 見せ方ですね。オンラインで学校とつながって。セツ森センターはそれほどの人数が入れる場所ないのかなと思しますので、まさか学校の体育館でっていうのも……。ちょっと研究させていただきたいと思っております。ぜひテレワーク施設もですね、見て頂きたいと思っております。（穴澤）
- ・ ありがとうございます。そうしますとあれですね。審議会の方は15時から16時半としても、その前後とかで諸々調整いただいて、日程も含めて全体調整ということでよろしくお願ひしたいと思ひます。
はい、あとそれ以外でご意見とか、ご要望ですとかある方はいらっしゃいますでしょうか。
よろしいですか。では、今日はこれでですね。審議会の方を終了させていただければと思ひます。よろしいでしょうか。はい、皆様、お疲れさまでした。（小田）
- ・ ありがとうございます。（穴澤）

以上で審議会を終了し、閉会する。（13時52分終了）

